児童の震災体験 映像に

関東大震災100年

絵と併せ作文朗読

9月1日に関東大震災の発生100年を迎える。被災者らを追悼する東京都慰霊協会（東京都墨田区）は、当時の小学生の震災経験をつづった作文と絵をデジタル化してDVDにまとめた。現代の小学生が作文を朗読。大災害の恐ろしさを子どものまっすぐな表現で伝えている。

震災翌年の1924年に、当時の東京市（現在の区部中心部）の小学生約2000人が書いた作文をまとめた「東京市立小学校児童震災記念文集」から、地元の本所区（現墨田区）の小学校6校の児童14人の作文を選定。現在地元在住で同じ学年の児童14人が朗読した。

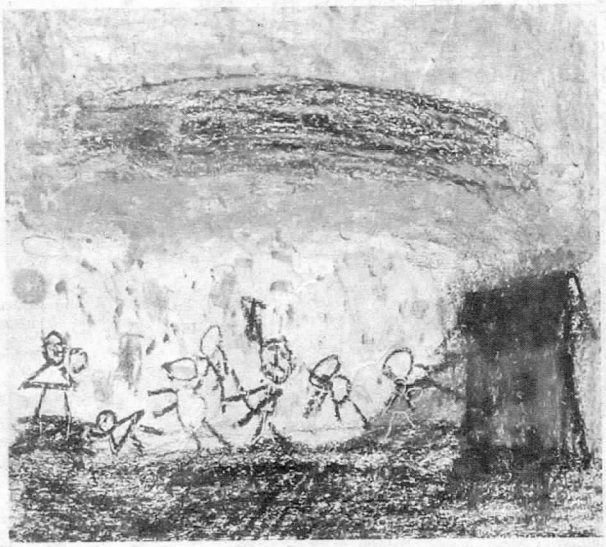
DVDは約40分間で、朗読とともに本所区の「本横尋常小学校」の児童が震災の様子を描いた絵を紹介。燃えさかる炎や、川の中に逃げる家族らの様子をクレヨンで表現している。

3年生の男子児童の作文「大地震と大火事」では「おとなの人があついあつい、といってにげていきます」と避難する人々の様子を描写。2年生の女子児童の作文「地震とかじのこと」では「やけどをして、かおも、くびも手も、ひじも、ひざも、かわがむけて、口もきけません」とやけどを負った父親の様子を詳細につづる。

文集は都復興記念館（墨田区）で保管しているが、古くなり手に取って読むことができないため、関東大震災100年記念事業の一環として同協会がDVD化。一般販売はせず、9月1日にリニューアルオープンする予定の同館で常時閲覧できるようにする予定だ。

記念事業を担当する同協会の高田賢一さんは「当時の子どもたちが感じた震災の生々しい体験を現代の児童の声を通して追体験してもらいたい」と話している。

ぼくのせなかの上を、おとなの人があついあつい、
といってにげていきます。あたりをみると、
れんがが雨のようにとんで、とたん板は紙をまいた
ようにとんできます。ぼくのあたまの上を、
火柱（ひばしら）がぐるぐるまわっています。
その内、ぼくの上を、人が三四人のってきまた。



関東大震災の体験をつづった子どもの作文と絵を収録したDVDの一場面（都慰霊協会提供）